

## 《薬局サーベイランスコメント》

『2019年第10週のインフルエンザの推定患者数は約15万人と6週間連続して減少が認められているが、春休みに入るまではまだ注意が必要。』

2019年3月12日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第10週（3月4日～10日）のインフルエンザの推定患者数は、146,191と前週の値（220,544）よりも減少し、6週間連続しての減少となりました（図1）。また、週明けの月曜日（2019年3月11日）の推定患者数は26,878と前週の月曜日の値（37,869）を下回っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。

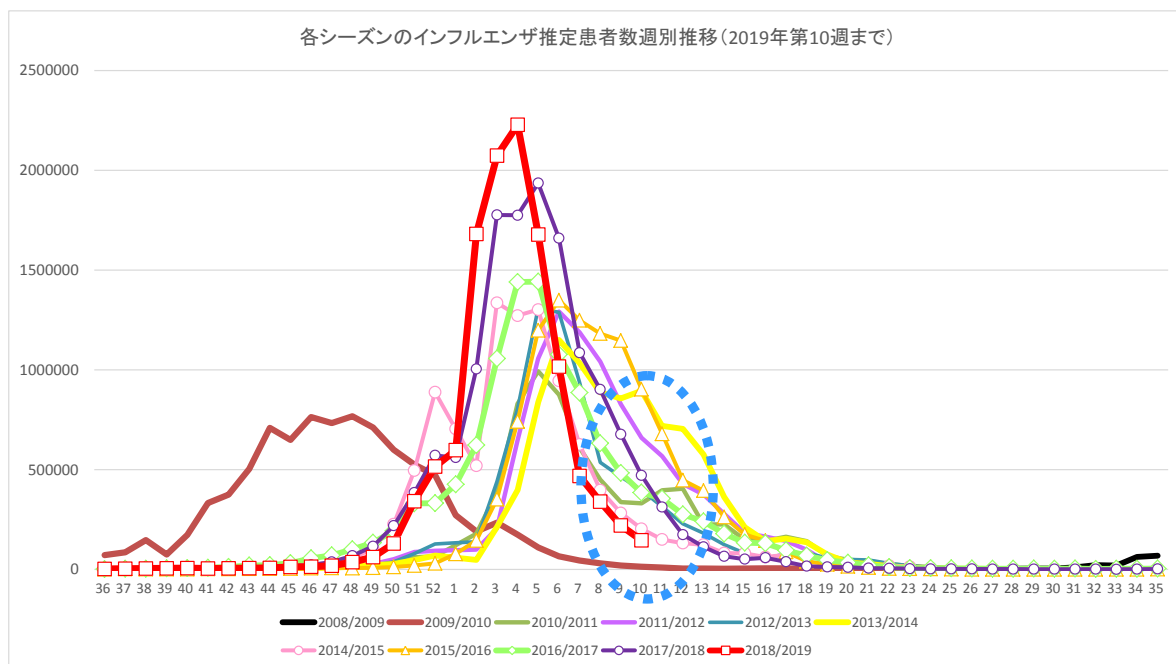


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第10週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第10週の推定患者数：146,191）

各都道府県別の第10週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると秋田県、福井県、山形県、北海道、三重県の順となっていて、47都道府県全てで前週よりも減少がみられました。

2018年第36週から2018年第10週までの累積の推定患者数は11,624,329であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は9.17%でした。年齢群別で

の累積罹患率は5～9歳（30.67%）、10～14歳（22.51%）、0～4歳（21.84%）、15～19歳（11.89%）、30～39歳（9.67%）、20～29歳（9.00%）、40～49歳（8.48%）、50～59歳（6.91%）の順となっていて、例年と比べると成人層の罹患率が高くなっています（図2）。

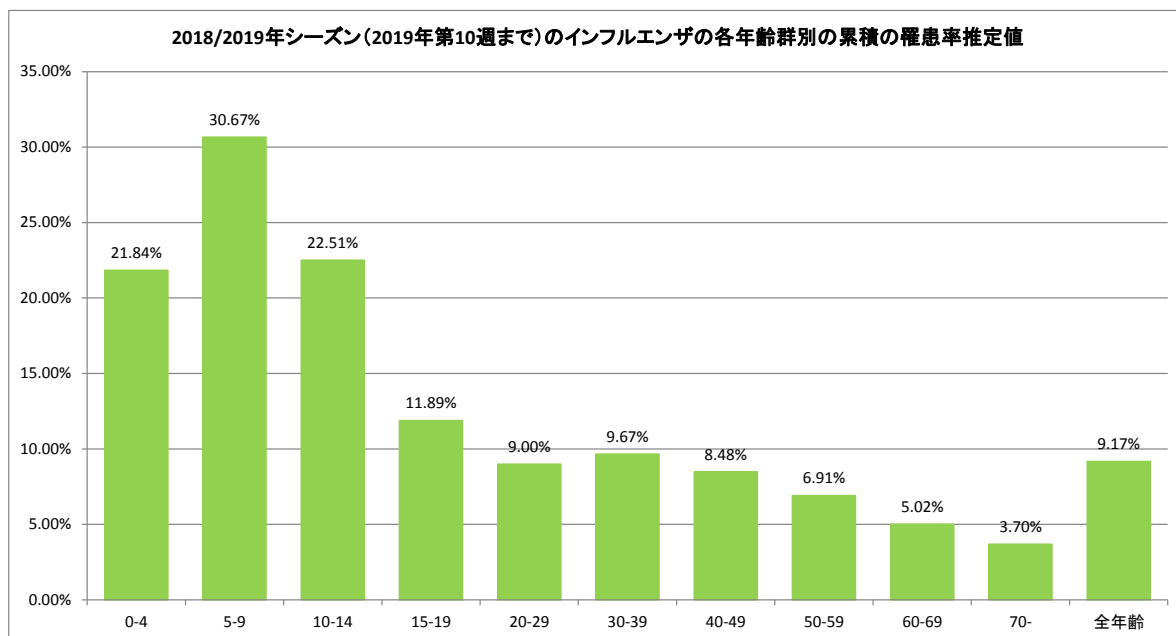


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018年第36～2019年第10週、累積推定患者数=11,624,329)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(4,092検体解析)は、A/H3(A香港)亜型50.4%、A/H1pdmが48.1%と、B型1.4%となっています。AH3亜型とA/H1pdmの2種類のA型ウイルスが検出ウイルスの大半をしめている状態が継続しています。(図3)。

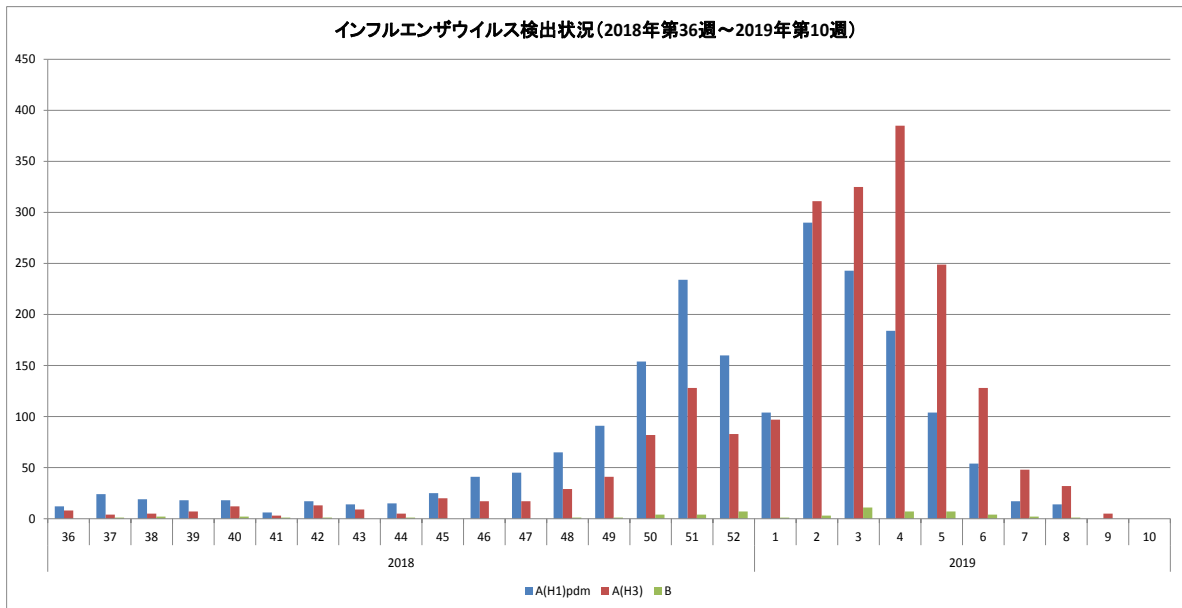


図 3. 国内のインフルエンザウイルスの検出状況の週別推移（2018 年第 36 週～2019 年第 10 週；国立感染症研究所病原微生物情報 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html> より得られたデータを解析）

2019 年第 10 週のインフルエンザの推定患者数は約 15 万人と 6 週連続して減少が認められました。インフルエンザの患者数は減少が続いていますが、学校等が春休みに入るまではまだ注意が必要です。